

長野県における公立高校通学区制の考察

松本文 男

長野県教育委員会

中学の95%が高校に入学し、その80%が公立高校に入学している長野県において、このところ教育は学区制の問題が、教育行政上は勿論のこと、県行政上の最大の焦点となっている。

県教委、県教組、県高教組、小中校長会、高校長会、県会、県内各政党、そしてマスコミ等、が各々多少の相違点をもつて決議や交渉、論争を繰返し、県教委の正式発表も常に前回発表とは矛盾しているため、圧力関係の間を揺れている感がある。

格差(高等学校相互の)解消が錦の旗となつてはいるが、その旗も時折は引裂かれざる様相をみられぬところだ。

この変遷の跡をたどってみるとともに、高校教育の意義を考えてみた。